

# マンガにおけるオノマトペの中国語訳についての考察

侯 仁鋒・松尾 美穂\*

## 1. はじめに

日本のマンガが世界の多くの国々に翻訳されて日本文化のハイライトとして広がっている。例えば、人気のマンガ「ONE PIECE」は世界30カ国以上で読まれている。その中で、中日文化が共通している部分が多いという背景で、日本マンガの多くは中国語に訳されて、若者を中心に愛読されており、多くのファンを持っていると言われている。

マンガは、絵と言葉（話し言葉・背景の説明描写など）で主に成り立っている。その中でオノマトペ（擬音語・擬態語）が多く使われている。このオノマトペは日本語の特質とされ、日本語には豊富に存在しており、そのおかげで微妙な表現や曖昧な表現を可能としている。たとえば、「ドンッ」や「タタタ」、「ゴロゴロ」「コロコロ」などがある。これらの言葉があるからこそ場面の状況がよりイメージしやすくなり、理解しやすくなっているのだと考えられる。そのようなオノマトペは中国語ではどの程度で訳され、どう表現されるのか、非常に興味深いと感じて調査研究を行った。

## 2. 調査研究方法

### 2.1 調査対象の選定

上述のように、中国でも日本のマンガは数多く翻訳され、出版されている。その中で、『クレヨンしんちゃん』（臼井義人 双葉社 1992年）、『蜡笔小新』（臼井儀人 李洪江译 陕西师范大学出版社 2002年）と、『ドラえもん』（藤子・F・不二雄 小学館 1983年）『哆啦A梦』（藤子・F・不二雄 王永全译 吉林美术出版社 2005年）の日本語版と中国語版をまず読んでみた。最終的に研究対象を『クレヨンしんちゃん』に決めた。その理由は、こちらの作品のほうが1冊の中で豊富なオノマトペが存在しているからである。『クレヨンしんちゃん』は、その話の内容から子どもに人気であり、アニメでは感動するストーリーもあるということで大人にも人気の作品である。現在50巻出版されているが、すべてを読んでいくと膨大な量の調査が必要となる。この作品は1つの巻でも約490語ほどのオノマトペが存在しているので、その中の第2巻を用いて研究対象とする。

### 2.2 調査対象の具体的なデータ及びその中から見えるもの

調査対象：『クレヨンしんちゃん』（臼井義人 双葉社 1992年）第2巻

全3編 総話数36話

コマ数：914コマ<sup>1)</sup>

セリフの数：1623文

オノマトペの数：489語<sup>2)</sup>

ナレーションの数：78文

で構成されている。

---

\* 松尾 美穂 本学国際文化学科H22年度卒業生

この結果をみると、大体2コマに1回はオノマトペが使われている計算となる。このことから、絵だけでは表現できない物の状態や様子を表す時にオノマトペは非常に有効であると考えられる。また、マンガにおけるオノマトペは、私たちの考察では大きく2種類に分けられる。一つはセリフに見られるオノマトペで、もう一つはマンガの一部としてのオノマトペである。

### 2.3 研究方法

まずは、辞書、文法書、先行研究などの精読により、日本語のオノマトペの性質、用法などを理解し、第二に、中国語のオノマトペの表現法を把握していくと同時に、中国のマンガ（小人書）も読んでその特徴の認識に努めた。第三に、日本語のオノマトペに関する中国語訳の先行研究を勉強した。このように研究土台が構築できた。

続いて、この土台を踏まえて、研究対象である『クレヨンしんちゃん』第2巻の日本語版と中国語版を、一コマずつ日本語ネイティブスピーカーと中国語ネイティブスピーカーの共同作業で、対照しながら読み、日本語の使い方を確認して、中国語訳の妥当性を検討してきた。

最後に、それぞれ絵（コマ）の数、セリフの数、ナレーションの数、オノマトペの数に分類してみた。そこからオノマトペの中国語訳について、その翻訳の出来上がり具合、翻訳可能とその限界などを考察してみた。

## 3. 調査の結果

### 3.1 適訳・不適訳・誤訳の定義

まず、何をもって適訳・不適訳・誤訳とするのかということについて私たちなりに定義しておいた。

適訳……①十分に日本語の意味をとらえて翻訳されているもの。

②中国語の表現としても自然に訳されているもの。

不適訳…①中国語の表現として、十分に日本語の意味を反映せず訳されているもの。

②文法上や言葉の表現で、中国語の表現自体が不適切・やや不自然なもの。

誤訳……①日本語の意味を理解せずに訳されているもの。

②動作主や場面など、対象を間違えて訳されているもの。

以上の定義をもとに、『クレヨンしんちゃん』第2巻のオノマトペの中国語訳を、日本語のそれと対照しながら、日本語ネイティブスピーカーと中国語ネイティブスピーカーの共同作業で厳密に検討した。結果は下記の通りである。

### 3.2 調査結果及びその分析

『クレヨンしんちゃん』第2巻のオノマトペの中国語訳の分類<sup>3)</sup>

|            | マンガの一部としての<br>オノマトペの数 | セリフの中に見られる<br>オノマトペの数 | 計           |
|------------|-----------------------|-----------------------|-------------|
| 適訳         | 195 (54.9%)           | 98 (73.1%)            | 293 (59.9%) |
| 不適訳        | 76 (21.4%)            | 13 ( 9.7%)            | 89 (18.2%)  |
| 誤訳         | 41 (11.5%)            | 14 (10.4%)            | 55 (11.2%)  |
| 翻訳されなかったもの | 43 (12.1%)            | 9 ( 6.7%)             | 52 (10.6%)  |
| 計          | 355 (100%)            | 134 (100%)            | 489 (100%)  |

まず、マンガの一部としてのオノマトペの数について結果を分析していく。マンガの一部としてのオノマトペの数の中で、適訳とされたものは54.9%となった。不適訳・誤訳・翻訳されなかったものとの合計はほぼ半数という結果となっている。その中で不適訳は21.4%と2割を超える割合に及んでいた。誤訳の割合は11.5%と、全体の1割を超えている。さらに特筆すべきこととして、中国語訳になった時に翻訳されず消えてしまったものが12.1%と、全体の1割を超えていることが分かった。

次に、セリフの中に見られるオノマトペの数について結果を分析していく。セリフの中に見られるオノマトペの数の中で、適訳とされたものは73.1%と7割を超える結果となった。不適訳は9.7%と1割近くであり、誤訳は10.4%と1割を少し超える結果であった。翻訳されずに消えてしまったものは6.7%とわずかな数字にとどまっている。

また、マンガの一部としてのオノマトペの数とセリフの中に見られるオノマトペの数の総計の結果は、適訳が59.9%と全体の6割近くを占める結果であった。不適訳・誤訳・翻訳されなかったものの合計は40%と4割が誤って解釈されている結果となった。その中で不適訳は18.2%と2割に近い結果であり、誤訳は11.2%と1割を超えている。翻訳されず消えてしまった訳も10.6%と1割を占めている。

## 4. 実例の考察

### 4.1 適訳の例と分析

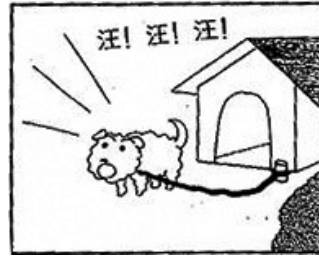
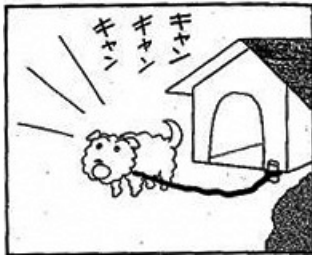
適訳は全体の59.9%であった。すべてを例示すると膨大な量となるので、その中から10例挙げて分析していく。まず日中両方を合わせて読んでいただきたい。

日本語版

中国語版



④



⑤



⑥



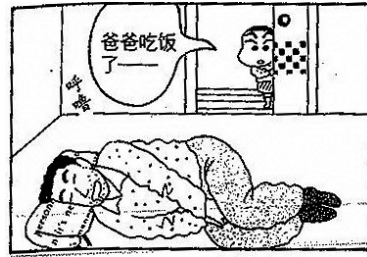
⑦



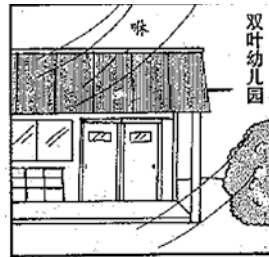
⑧



⑨



⑩



これらの適訳から見られる特徴として、大きく5つのことが挙げられると思われる。

まず、犬の鳴き声や鳥のさえずりなど、動物の鳴き声のオノマトペは適訳されていることが多かった。(②、④を参照)

次に、笑い声や泣き声などの感情を表すオノマトペも適訳と判断できるものが多かった。(⑥、⑦を参照)

そして、いびきや咳などの生理現象に対するオノマトペも適訳となっている。(⑧、⑨を参照)

さらに、風の音や紙を擦り合わせて出る「ガサガサ」といった自然に関わる音のオノマトペも適訳とみなすことができるものが多かった。(③、⑩を参照)

最後に、「もみもみ」や「ふきふき」、「ぱっ」といった、擬音語でなく、擬態語は多くの場合適訳となっている。このパターンには他の特徴として、オノマトペが動詞化されていることが見られる。

(①、③、⑤を参照)

#### 4.2 不適訳の例と分析

不適訳は全体の18.2%と2割近く占めていた。こんなにあるとは予想外で驚いた。その中から紙幅の都合で10例のみ挙げながら、それぞれを分析していく。

日本語版

中国語版

①



①の「ぶーっ」と飲み物を噴き出す音を表すオノマトペだが、中国語で“哼”となっている。“哼”

は人間がフンツと鼻から出す音声である。対象を間違えた訳である。“噗”という擬音語で訳せば適切であろう。

②



②の「ドスンバタン」と飛び跳ねる音を表すオノマトペだが、これは中国語で“踏踏”と表されている。“踏”は、踏む、踏みつけるといった意味を持つ言葉で、これで分かるようにこれも対象を間違えた訳となっている。ちなみに、“蹦蹦”という跳ぶ、はねるという意味を持つこの表現で表すほうが、この場面に適切な表現になると思われる。

③



③の「ガラガラガラガラ」とうがいをする音を表すオノマトペは、中国語では“哗啦哗啦哗啦哗啦”と表されている。“哗啦”という擬音語は確かに中国語の中に存在するのだが、物が崩れる時の音、大量の液体や砂などが一度に流れたり落下したりする時の音、水の流れる音、水が沸き立つ音として表現される。うがいの時の音を表すようなオノマトペではないかもしれない。そこで、“咕噜咕噜咕噜咕噜”という表現のほうが適切ではないかと思われる。

④



④の「ばばば」とテーブルを拭く様子を表すオノマトペだが、中国語は“擦不完”という表現が使われている。“擦不完”は、「まだ拭き終えていない」という意味になり、テーブルを拭いているという場面の状況とは少し異なるように感じた。そこで、“擦擦擦”と、「拭く」という意味の動詞を重ねるほうが適当な訳になるのではないかと思われる。

⑤



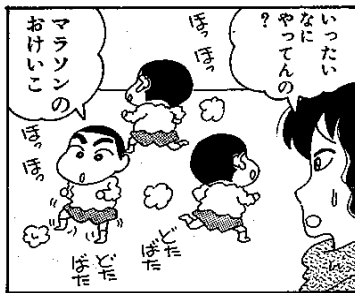
⑤の「どたばたじたばた」と暴れる様子を表すオノマトペが、中国語では“动弹不得 束手就擒”と表現されている。これは、暴れるしんちゃんを取り押さえる先生たちの様子を描写している。この表現よりも“乱踢乱动”と表すほうがより適切な訳になると考えられる。

⑥



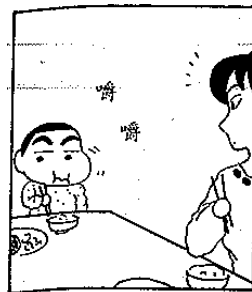
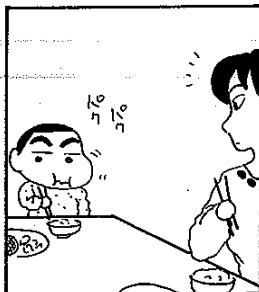
⑥の「シクシク痛い」「キリキリする」という、腹痛の程度を表すオノマトペだが、中国語で“吱吱叫的痛”“咕噜噜叫的痛”と表されている。ここは、「シクシク」が鈍く痛むさまを表す、「キリキリ」が鋭く痛むさまという日本語のニュアンスを受け、“隐隐的疼痛”“针刺般的痛”などと表現するのがより適切であろうと考えられる。

⑦



⑦の「どたばたどたばた」と走り回る様子を表すオノマトペが、中国語では“原地踏步 勇往直前”と表されている。これは、「その場で足踏みする、勇敢に邁進する」という意味になる。そこまでおおげさな表現をするのは適切ではないと感じた。そこで、もっと単純に“跑呀跑”と表現するほうがより適切だろうと思われる。

⑧



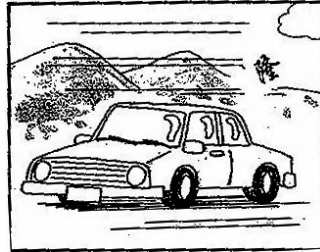
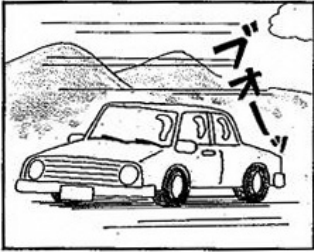
⑧の「パクパク」と食べものを口に運ぶ様子を表すオノマトペだが、中国語で“嚼嚼”と表されている。“嚼”という言葉は、食べものを噛むというニュアンスが強く、口に運ぶという意味とは少し違っているように考える。そこで、“一个劲往嘴里塞”と表現したほうがよいのではないかと思う。

⑨



⑨の「くんくん」と靴下のにおいが鼻につく様子を表すオノマトペだが、中国語で“嗅嗅”と表されている。これでもにおいをかぐという意味にはなるが、“嗅”はどちらかということにおいが強くないものを故意にかぐというニュアンスを持っている。この場面は臭いにおいが嫌でも鼻につくような状況なので、そのようなニュアンスを含む“臭臭”と表現したほうがより適切ではないかと考える。

⑩



⑩の「ブオーッ」という車のエンジン音を表すオノマトペは、中国語で“隆ー”と表されている。この表現に車の音を表す意味はない。ここは“隆ー”よりも、“啣ー”と表したほうがより適切であろうと考える。

全体として結論はまとめにくいだが、このような結果になったのは、日本語への理解が不十分な面があっただろうが、場面に合わせて中国語の表現として推敲を十分にしていないことが原因ではないかと思われる。

### 4.3 誤訳の例と分析

誤訳は全体の11.2%と、1割を超える結果となった。この結果には尚更驚かされた。誤訳についても、10例のみ挙げながら分析していく。

日本語版

中国語版

①

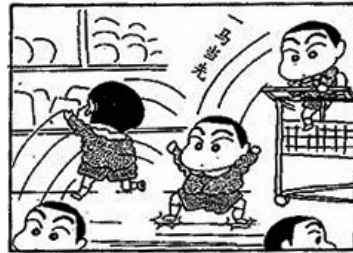


①についてだが、「しみじみ」は、ひろし（しんちゃんのパ）がみさえ（しんちゃんのパ）の行動に愕然としているオノマトペである。これは中国語で“语重心长”と表されている。“语重心长”は



老婆心のような意味になる。この場面で言う「しみじみ」は、日本語での「心にしみ入るさま」や「心静かに落ち着いてするさま」というような意味にも当てはまらず、みさえの見栄っ張りな行動に呆れているようなニュアンスを感じさせている。だから、この表現は場面の理解が不十分で行ったものだと考えられる。

②



②の「ひよい すたっ たたたた ちょこまか」というしんちゃんの行動の一連の流れが中国語では「一马当先」という言葉でまとめられて翻訳されている。この言葉は中国の成語で「先駆ける、率先して事を行うこと」とされている。この場面は、その一つ前のコマで父親と母親がたくさん物を買って入っているのを見て、自分もそうしよう！と思い立って行動している場面となるので、先駆けて行動しているとは言えない。場面の理解が不十分で誤訳したと考えられる。

③



③は、「ガタタ」と医者が高声よく立ち上がる様子を表すオノマトペであるが、中国語では“吼吼吼”と表現されている。“吼”は「人がどなる」という意味である。場面の状況として医者は確かにしんちゃんに怒っているが、「ガタタ」という表現とは完全に異なる訳となっている。

④



④で「ひんやり」という冷蔵庫の冷たさを表すオノマトペであるが、これが中国語では“开门见喜”となっている。この表現は正月の時に使われる表現であり、このような場面では使われることはない。明らかな誤訳であろう。



⑤は、「ばん〜ん」と豪華なケーキを披露する様子を表すオノマトペが使われている。中国語では“光芒四射”と表現されている。この言葉は、「宝石などが輝いている」という意味を持つので、意味がずいぶん異なる。訳としては「過ぎたるは及ばざるがごとし」と言えよう。



⑥は、「ぎゅううう」としんちゃんのほっぺたをつねる様子を表すオノマトペが使われている。これが中国語では“七上八下”と表現されている。“七上八下”は中国語の成語で「心が乱れるさま、心を決めかねるさま」という意味がある。ここではしんちゃんを叱りほっぺたをつねっているのだから、心が乱れるという意味とは解釈が異なると考えられる。



⑦の、「ふわあ〜」とシャボン玉が飛んでいく様子を表すオノマトペは中国語で“酥酥地”と表現されている。“酥”という言葉には、「体の力が抜けてぐったりする、足腰が立たなくなる」という意味がある。「ふわあ〜」というオノマトペはしんちゃんの様子を表しているのではなく、シャボン玉の状態を表しているものなので、動作の対象を誤って解釈しているのだと考えられる。



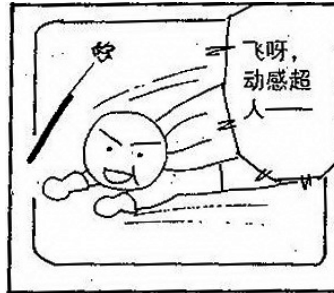
⑧の「しーん」と場面がしらけた様子を表すオノマトペでは、中国語で“呆一住”と表現されている。“呆一住”は「呆れて何もできない」というような意味となり、しんちゃんの動作としてとらえられている。「しーん」はあくまでも場面の様子を表すので、この訳は誤っていると考えられる。

⑨



⑨の「パッパッ」と視界を遮る様子を表すオノマトペは、中国語で“挥手”となっている。“挥手”は手を前後に振る動作で、ここでいう視界を遮るような動作とは異なっている。この場面はテレビへの集中をそらすための動作であるため、もう少し具体的に翻訳しないと前後のつながりが分からなくなってしまうおそれがあると考えられる。

⑩



⑩の「ジャン」というアニメのキャラクターの登場シーンは中国語で“好一”と表現されている。“好”は「よい、りっぱだ、健康だ」などといった意味はあるが、ここではその中のどの訳も当てはまらない。登場する時の効果音なので、意味のある単語を入れると、誤った解釈が起りやすくなってしまふかもしれない。この場合は「ジャン」という音声に対応させた訳を入れたほうがよからうのではないかと考えられる。

以上の分析からでも分かるように、誤訳のほとんどは、日本語のオノマトペが理解できずに、勝手に、いい加減に中国語に訳したものであった。なぜだろうか。実は、共同作業で、中国語ネイティブスピーカーも以上のオノマトペを含めて、日本語ネイティブスピーカーの説明を受けないと、正確に理解できなかったことがしばしばあった。日本のハイテク文化、暗黙の了解という前提で使われているオノマトペが、日本人はなんとなく理解できるが、外国人には実に難しいと、この誤訳からでも示唆されている。同時に、辞書にも載っていないことも多いので、ネイティブスピーカーに確認するほかにないと痛感した。

#### 4.4 翻訳されなかった例と分析

翻訳されずに消えてしまったオノマトペは全体の10.6%と1割を占めていた。この結果については不思議に思いながらも仰天したという感じがあった。こちらの中から10例を挙げて分析していく。

日本語版

中国語版

①



①では、「よたた」というオノマトペが翻訳されずに消えてしまっている。絵だけでも何となく状況は伝わるが、対応するオノマトペは存在するのではないかと考えている。

②



②では、「だっ」とこけるシーンのオノマトペ、「ばちやー」と水がこぼれる音を表すオノマトペが翻訳されていない。「だっ」とこけるシーンは他の場面では翻訳されていたが、この場面では翻訳されずに消えている。「ばちやー」が消えてしまうと、臨場感が薄められていることが明らかであろう。

③



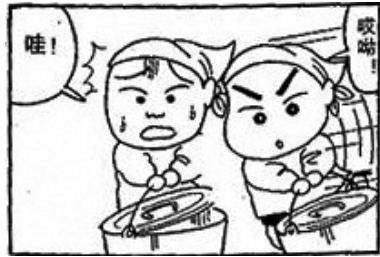
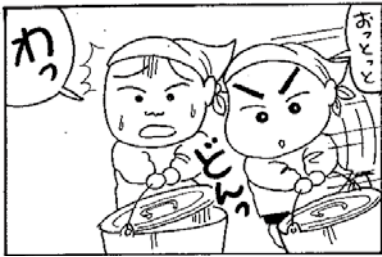
③では、「ちょろちょろ」とバケツに残った水の音を表すオノマトペが翻訳されずに消えてしまっている。これでは、動作の細部の描写が損なわれることになり、原文と多少乖離している。

④



④では、「じよぼぼぼ」と水を注ぐオノマトペが翻訳されずに消えてしまっている。不訳をとったことで、想像による音響効果が生まれえない。マンガの本質が損なわれることになる。

⑤



⑤では、「どんっ」とぶつかる音を表すオノマトペが翻訳されずに消えてしまっている。この場面自体は確かに絵を見ただけでどのような状況か理解することができるが、「どんっ」というオノマトペを用いることでより臨場感を持たせたほうが良いと考えられる。

⑥



⑥では、「ポタポタ」と水滴が滴る様子を表すオノマトペが翻訳されずに消えてしまっている。このオノマトペを省略すると、場面の状況の理解に苦しむと考えられる。

⑦



⑦では、「ガッタン」「ガラガラ」と雑壇を倒す音を表すオノマトペが消えてしまっている。ここもオノマトペを省略してしまうと、どのような動作が行われているか理解しにくくなってしまふと考えられる。

⑧



⑧は、「ガ～」と自動ドアが開く音を表すオノマトペが「～」のみで表されている。これは「ガ～」というのがそもそもオノマトペであると理解されず、「～」のみで表したのか、「ガ～」というオノマトペの翻訳に悩んだ末に、やむをえず「～」のみで表したのかという2つの考えが出てくる。

⑨



⑨は、黒字表記の「ぐしゃ」というケーキが壊れてしまったことを表すオノマトペが原文では強調されている形であるのに、翻訳されていない。これはないと、このコマのアクセントがカットされていることになっている。

⑩



⑩は、「どかさ」と大量のお菓子をかごに入れる様子を表すオノマトペが翻訳されていない。ここも特にオノマトペがなくても場面の理解に問題はないように感じるが、たくさんの物をかごに入れたら何かしら音は出ると思うので、オノマトペが入っていたほうがより場面に臨場感が出るのではないかと考える。

翻訳の理論からもその技法からも、確かに不訳は訳に勝る場合がある。しかし、上述した例はどれもこれとは違う。どういう考えで不訳をとったのか、真意の推測は難しいが、結果から言うと、少なくとも原作の意味伝達を十分にしていないので、中国語読者はその理解に支障を来されるに違いないと思われる。また、翻訳において不訳をこんなに行っているのか疑問に思う。

## 6. オノマトペの翻訳の限界についての考察

### 6.1 言語構造の違い

基本的に日本語は表音言語であり、だからこそオノマトペが多く存在している。一方、中国語は表意言語であるため、その分オノマトペが少ない。このような現状を踏まえて考えると、日本語のオノマトペの中国語訳は研究された結果のように多彩、多様で日本語と対応しているが、不適訳、誤訳、訳されていないものも多く見られたのは、日本語への理解が不十分だったことを除けば、この言葉の構造の違いによるものであって、日本語通りに、その微妙さなど細部の中国語訳にはやはり限界があ

ると言わざるをえない。但し、安易に不訳したりするというような工夫を怠ってはいけないと思う。

## 6.2 マンガ構造の違い

オノマトペの翻訳をしていく際に、翻訳されずに消えてしまったものが全体の1割近くを占めていた。この結果から、使用する言語が異なるとやはり翻訳は難しく、原作に忠実に再現していくことは非常に困難であることが分かった。また、特にマンガにおいては日本(語)と中国(語)で構成に大きな違いがあることもこの限界を引き起こす原因となったように感じた。日本語ではオノマトペは場面の様子に臨場感を出すという役割だけでなく、絵の一部として使われていることが多い。これに対して中国語のマンガは、絵とセリフというとてもシンプルな作りになっていて、オノマトペはほとんど使われていない。このようなマンガの構成上の違いも、翻訳における限界を生み出していると考えられる。統計のデータからマンガの一部としてのオノマトペに誤訳などが多くと裏付けられている。

## 6.3 自家製のオノマトペが多い

作者がその場、その雰囲気などに合わせて自作したオノマトペに多く遭遇する。辞書を引いても載っていないものがあるということが翻訳を難しくさせているのだろうと考えられる。尚且つこういうものは往々にして日本人でないと、その微妙さ、デリケートな部分が理解できないので、限界をもたらすのであろう。

## 注

### 1) コマ・セリフ・ナレーション・オノマトペの定義。

コマ(絵) … 枠で囲まれているコマの数。

セリフ… 人物が喋った言葉の数(フキダシに限らず、フキダシの外にある言葉もここに含む)。

ナレーション… 場面の状況説明や、第三者による説明の言葉。

オノマトペ… 上で述べたオノマトペの特徴に当てはまっているもの。

### 2) 延べ語数での統計。

### 3) 延べ語数での統計。また、オノマトペの分類をしていく中で、登場人物のセリフやマンガの中に出てくる物の商品名、店名の中にも不適訳・誤訳・翻訳されていないものが見られたが、本論文での研究対象はオノマトペなので、今回それについては指摘していない。

## 参考文献

- 小野正弘編『擬音語・擬態語4500 日本語オノマトペ辞典』小学館 2007年  
 浅野鶴子・金田一春彦著『擬音語・擬態語辞典』角川書店 昭和53年  
 呉川著『オノマトペを中心とした中日対照言語研究』白帝社 2005年  
 夏目房之介著『マンガはなぜ面白いのか その表現と文法』日本放送出版協会 1997年  
 田守育啓 ローレンス・スコウラップ著『オノマトペー形態と意味ー』くろしお出版 1999年  
 鹿焱「翻訳から見る日中両言語の擬音語・擬態語文法機能の異同について」『神戸女学院大学論集』  
 2016年  
 岡本克人「日仏漫画の対照言語学的研究ーオノマトペを中心に」『高知大学学術研究報告』1991年  
 鈴木和子「“象声詞”のタイプと音声描写特長」『駒沢大学外国語部論集』1988年

細川裕史「マンガ・コミックにおけるオノマトペの日独比較—マンガのオノマトペをいかにドイツ語に翻訳するか?」『独逸文学』50 2006年

侯仁鋒「拟声拟态词的翻译」『日语学习与研究』第三期 1987年

张婷「日本文学作品中拟声拟态词的应用与汉译模式的探讨」西安交通大学硕士学位论文 2007年



Abstract

## A Study on Chinese Translation of Onomatopoeia in Manga

Hou Renfeng · Matsuo Miho

### 对漫画中的拟声拟态词汉译的研究

#### 摘要

我们以『蜡笔小新』（白井仪人 李洪江译 陕西师范大学出版社 2002年）的第二卷为研究对象，对其中出现的489个拟声拟态词，对照原文，对其汉译方法进行了考察，结果发现：翻译准确的占59.9%，翻译欠准确的占18.2%，误译占11.2%，没译占10.6%，后三者的总和达到40%，极有可能损害了翻译整体的准确性。我们进而探讨了原因，认为有这样几点：一是日语表音性极强，拟声拟态词发达，表意微妙飘逸，以致汉译困难；二是日语是高文化语境语言，一些约定俗成外来者很难理解到其中奥妙，所以误译中很多是张冠李戴；三是漫画中的不少拟声拟态词，是作者根据场面等临时创造，词典中查不到，只好望风扑影地翻译；最后是翻译行为欠严谨，似乎可以说推敲不够，所以造成了欠准确的翻译占了近乎20%。以上困难解决的最好方法，就是不要自以为是，凡觉得理解上有牵强之处，不妨请教日本人，谅会茅塞顿开。